

平成 29 年度 事業報告書

公益財団法人 全国老人クラブ連合会

【目 次】

概 況	1
1. 高齢者をめぐる社会情勢	1
2. 事業の重点	2
公益目的事業	4
1. 老人クラブ活動の活性化事業	4
（1）老人クラブ組織間の連絡調整・活動の支援	4
① 都道府県・指定都市老連会長会議の開催	4
② 都道府県・指定都市老連女性代表者会議の開催	4
③ 都道府県・指定都市老連常務理事・事務局長会議の開催	5
④ ブロック連絡協議会への参加	6
⑤ 活動促進モデル事業の実施	7
⑥ 指導書等の作成・配布	7
⑦ 学習・活動教材の作成・普及	8
（2）指導者・活動推進担当者の育成	8
① 老人クラブリーダー中央セミナーの開催	8
② 老人クラブリーダーブロック研修会の開催	9
③ 女性リーダーセミナーの開催	14
④ 健康づくり中央セミナーの開催	14
⑤ 在宅福祉を支える友愛活動セミナーの開催	15
⑥ 新任事務局長・職員研修会の開催	16
⑦ 活動推進担当者研究セミナーの開催	16
（3）顕彰の実施	17
① 表 彰	17
② 活動賞	17
2. 老人保健福祉思想の普及啓発	18
① 「老人の日・老人週間」キャンペーン運動の展開	18
② 高齢者の孤立を防ぐ仲間づくり活動の展開	18
③ 全国三大運動（健康・友愛・奉仕）の提唱	19
④ 全国老人クラブ大会の開催	20
⑤ 全国健康福祉祭における「地域文化伝承館」の開設	24
⑥ 月刊誌の発行	25
⑦ ホームページの開設	25

3. 高齢者に関わる調査研究	25
① 政策委員会の設置・開催	25
② 女性委員会の設置・開催	30
③ 老人クラブ活動を推進するための検討会の開催	30
④ 都道府県・指定都市老連組織・事業調査の実施	31
4. 国内外の災害及び難民等の支援	31
① 国内の災害被災地支援	31
② 海外の災害被災地支援	31
相互扶助等事業	32
1. 活動の充実に資する拠金運動及び安全対策	32
① 活動拠金運動の実施	32
② 活動安全対策	32
その他法人の目的を達成するための事業	33
1. 法人の運営及び法人事務の遂行	33
① 法人の運営	33
② 法人事務の遂行	34
2. 関係団体との連携	35
3. 国際交流事業の実施	36

概 況

1. 高齢者をめぐる社会情勢

(1) 「人生100年時代構想」と「エイジレス社会」

- 政府は、若者も高齢者も誰もが活躍できる「一億総活躍社会の実現」をめざす中、少子高齢化に挑み、年齢に関わりない就業の促進を含む「人生100年時代構想」について検討中である。
- 平成30年2月に閣議決定された「高齢社会対策大綱」では、65歳以上を“高齢者”とみる画一的な高齢者像からの転換を打ち出し、年齢によらず意欲・能力に応じて活躍できる“エイジレス社会”を目指すとしている。

※エイジレス社会とは、年齢などの枠組みを離れて、自らの能力と責任で自由でいきいきとした活動が続ける人々が多くいる、またこのような生き方が容認される社会。

(2) 健康寿命の延伸

- 厚生労働省は、日常生活が制限されることなく送れる期間を示す「健康寿命」について、平成28年は男性72.14歳、女性74.79歳だったことを発表した。前回平成25年調査と比べて、男性は0.95歳、女性は0.58歳延びている。
- 同28年の平均寿命は男性80.98歳、女性87.14歳であるので、日常生活に支障がある期間は、男性8.84年、女性12.35年である。前回調査より、男性は0.18年、女性は0.05年短くなっている。

(3) 新地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業）

- 国は持続可能な社会保障制度の確立を図るため、要介護状態になっても地域で暮らし続けられるように医療・介護・住まい・生活支援・介護予防が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築をめざしている。
- 平成27年4月の介護保険法の改正（第6期）により、予防給付（訪問介護・通所介護）を市町村において地域支援事業として実施することになり、平成29年度には移行期間を終えてすべての市町村で取り組まれている。

(4) 平成30年度国家予算

- 「経済再生」と「財政健全化」の両立を目指した平成30年度予算は3月28日に可決・成立した。一般会計予算総額97.7兆円のうち、税収が59兆円、公債金が33.7兆円で公債依存率は34.5%（前年比△0.8%）となった。
- このうち社会保障関係費は33兆円（33.7%）で、前年より5千億円弱（1.5%）

の増加である。

- 老人クラブ関係予算は25.9億円で、前年度から2千万円減額され、3年連続して減少となっている。

(5) 高齢者人口・老人クラブ数の状況

- 平成29年10月1日現在の総務省の調査では、我が国の人口は1億2,670万6千人で、前年に比べ22万7千人減少した。65歳以上人口は3,515万2千人で、前年に比べ56万1千人増加している。
- 65歳以上人口の割合は27.7%と過去最高になり、75歳以上人口の割合は13.8%とおよそ7.2人に1人が75歳以上となっている。

① 年齢3区分別人口

(各年とも10月1日現在)

	総人口	高齢者人口 (65歳以上)	生産年齢人口 (15～64歳)	年少人口 (0～14歳)
平成29年	126,706,000人	35,152,000人 (27.7%)	75,962,000人 (60.0%)	15,592,000人 (12.3%)
	差 △227,000人	561,000人	△600,000人	△188,000人
平成28年	126,933,000人	34,591,000人 (27.3%)	76,562,000人 (60.3%)	15,780,000人 (12.4%)

(平成29年：総務省統計局人口推計：平成30年3月20日公表)

(平成27年：27年国勢調査結果による補間補正人口：平成29年1月30日公表)

(※数値は四捨五入のため、合計の数値と内訳の計は必ずしも一致しない)

- 100歳以上人口は、過去最多の6万7,824人となり、うち女性が88%を占めている。47年連続して増えている。
- 老人クラブ数は、平成29年3月の調査集計で、前年比2,171クラブ(2.1%)、会員数19万3千人(3.3%)が減少、会員数の減少率は前年から0.3%高い。

② 老人クラブ数・会員数

	平成29年	平成28年	増減
クラブ数	101,110クラブ	103,281クラブ	△2,171クラブ
会員数	5,686,222人	5,879,616人	△193,394人

(厚生労働省「福祉行政報告例」：平成29年3月末現在)

2. 事業の重点

(1) 老人クラブ「100万人会員増強運動」の推進(第4年次)

平成26年度から5カ年計画で推進する「老人クラブ『100万人会員増強運動』」は、

第4年次を終えた（4年次の結果は30年6月に判明予定）。

本会では第3年次の結果を集約し、会員増をはたした市区町村老連へのアンケートを実施、優良クラブ・老連を顕彰する「100万人会員増強運動特別賞」の実施、会員増強事例を月刊「全老連」で毎号紹介して広報に努めた。

また、都道府県・指定都市老連の協力のもと、横展開できる好事例を掲載した「老人クラブ『100万人会員増強運動』全国事例集」を12万部作成して、各県老連、市区町村老連へ広く配布した。

加えて、現在進めている未加入への勧誘や活動の魅力づくりに役立てるため、会員にアンケートを実施して「加入のきっかけ」「もっとも楽しい活動」「加入して良かったこと」についてまとめ、今後の参考とした。

第3年次は、2年次同様、都道府県・指定都市老連段階での会員増加はなかった。市区町村老連では会員増加は265老連（15%）で前年より4%減少した。会員が増加している市区町村老連では、平均0.7クラブ増えている（増加1.1クラブ、減少0.4クラブ）ことが特長である。

運動開始前との会員数比較では、平均9.8%減少した。都道府県・指定都市老連ごとに差が大きく、最小3.2%から最大20.2%の減少である。

最終年次の運動に際しては、全国会議における検討をふまえて、少なくとも現状の会員数の維持に努めることとし、運動の重点として引き続き次の4点に取り組むこととした。

1. 市区町村老連との協議の場づくり
2. 新規クラブの立ち上げ
3. 解散クラブの防止
4. 単位クラブは純増をめざす

（2）「新地域支援事業に向けての行動提案」の推進

平成29年度からすべての市町村で実施されている「新地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業）」について、会議・セミナー等の機会に、市町村老連における積極的な対応を呼びかけた。特に、同事業の協議の場である協議体への参画、これまで老人クラブで実施してきた友愛活動や健康づくり・介護予防活動を活かした活動の展開を呼びかけた。

また、「新地域支援事業推進検討会」を開催して、事業を実施または参加している市町村老連のリーダー4名による情報・意見交換を行い、その結果を月刊「全老連」にて報告した。

現在の市町村老連の実施状況を調べたところ、第1層（市町村段階）協議体への参加・予定は約4割、新地域支援事業の実施・参加・予定は約2割（老連事業実施5%、他団体等事業に参加15%）という状況である。

公益目的事業

1. 老人クラブ活動の活性化事業

(1) 老人クラブ組織間の連絡調整・活動の支援

各種会議の開催、ブロック会議への参加、モデル事業の実施、指導書・学習教材等の作成・普及を通じて、組織間の連携を図るとともに、活動の支援を行った。

① 都道府県・指定都市老連会長会議の開催

地方組織のトップリーダーが集い、老人クラブの活性化と組織強化を通じて、老人の保健福祉の増進に寄与するために開催した。本年度は、全国的な事業をめぐる諸課題について、各都道府県・指定都市老連の取り組み状況等をもとに研究・協議を行った。

期 日：平成29年12月4日（月）～5日（火）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第3～5会議室」

参加人数：62名（ほかオブザーバーとして女性委員・事務局長等46名が参加）

会議内容：行政説明「介護予防・日常生活支援総合事業の動向と老人クラブに期待すること」

厚生労働省老健局振興課長 込山 愛郎

基調説明「全国的な事業をめぐる諸課題について」

全老連事務局長 谷野 香

活動発表

○ 組織改革でクラブ運営の活性化をはかる

福岡県老連会長 宮原 實

○ 「新地域支援事業」への参画で新規クラブ結成

福井県老連会長 八十島 幸雄

講演「地域でクラブを活かすチャンス」

公益財団法人 さわやか福祉財団会長 堀田 力

女性委員会報告

全老連女性副委員長 川端 幸枝

全体会

・老人クラブ「100万人会員増強運動」の取り組みについて

・「新地域支援事業」への取り組みについて

② 都道府県・指定都市老連女性代表者会議の開催

地方組織の女性代表者が集い、女性の立場からの老人クラブの活性化と組織強化を通じて、老人の保健福祉の増進に寄与するために開催した。本年度は、全老連女性委員会の推

進課題の「100万人会員増強運動」と「老人クラブ高齢消費者被害防止キャンペーン」について検討・協議を行った。

期 日：平成29年5月26日（金）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第3～5会議室」

参加人数：56名

会議内容：基調説明「平成29年度全老連事業の重点について」

全老連事務局長 谷野 香

報 告「平成28年度女性リーダーに関する活動報告」

全老連女性委員 山本 幸子

活動報告

○ 会員増強運動に向けた女性委員会の取り組み

大分県老連理事・女性委員長 倉本 八壽子

○ 「老人クラブ高齢消費者被害防止」に向けた取り組み

大阪府老連副会長・女性委員長 大久保 悦子

ブロック別情報交換

全体協議・報告

③ 都道府県・指定都市老連常務理事・事務局長会議の開催

地方組織の実務責任者が集い、老人クラブの活性化と組織強化を通じて、老人の保健福祉の増進に寄与するために開催した。

〔第1回〕

全老連、都道府県・指定都市老連が主唱する「老人クラブ『100万人会員増強運動』」の各都道府県・指定都市における運動3年目の推進状況を持ち寄り、今後に向けた検討・協議を行うとともに、全ての市町村において取り組まれている「新地域支援事業」に関する情報交換を行った。

期 日：平成29年6月12日（月）～13日（火）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第3～5会議室」

参加人数：61名

会議内容：厚生労働省説明「介護保険制度をめぐる施策の動向について」

厚生労働省老健局振興課課長補佐 愛甲 健

基調説明

- ・老人クラブ「100万人会員増強運動」の推進について
- ・新地域支援事業の推進について
- ・老人クラブ関係補助金の活用について
- ・活動安全対策について

全老連事務局長 谷野 香

事例発表

- 市町村老連とともに進める加入促進活動

千葉県老連常務理事・事務局長 大藪 定信

- 札幌市手稲区老人クラブ連合会「会員増強プロジェクト」について

札幌市老連常務理事・事務局長 小林 恒男

- 大阪府高石市老人クラブ連合会の取り組みについて

大阪府老連常務理事・事務局長 磯村 勉

分散会

- ・老人クラブ「100万人会員増強運動」の推進について
- ・新地域支援事業の推進について
- ・老人クラブ関係補助金の活用について
- ・その他

報告

- ・第46回全国老人クラブ大会の開催について（京都府）
- ・今後の全国大会の開催について
- ・第30回全国健康福祉祭あきた大会「地域文化伝承館」について
- ・老人クラブ「高齢消費者被害防止キャンペーン」について
- ・政策委員会幹事について

全体会

〔第2回〕

平成30年度に向けた全老連事業計画・予算案をはじめ、老人クラブを取り巻く社会情勢に対応する重要な課題等について、検討・協議を行った。

期 日：平成30年2月7日（水）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第3～5会議室」

参加人数：62名

会議内容：厚生労働省説明「介護保険制度の動向と老人クラブへの期待」

厚生労働省老健局振興課課長補佐 愛甲 健

基調説明「平成30年度事業計画・概算予算案について」

全老連事務局長 谷野 香

全体会

- ・平成30年度事業計画・概算予算案について

④ ブロック連絡協議会への参加＜国庫補助事業＞

ブロックごとに都道府県・指定都市老連の法人代表者、女性代表者、実務責任者が集い、当面する諸課題等について検討・協議する連絡協議会に出席して、必要な説明・助言等を行った。

ブロック	期 日	開 催 地	出 席 者
北海道・東北	平成 29 年 4 月 11 日～12 日	岩 手 県	常務理事 齊藤 秀樹
関 東	平成 29 年 5 月 9 日	東 京 都	常務理事 齊藤 秀樹
東海・北陸	平成 30 年 1 月 24 日～25 日	三 重 県	常務理事 齊藤 秀樹
近 畿	平成 29 年 4 月 26 日	滋 賀 県	事務局長 谷野 香
中 国	平成 29 年 4 月 27 日～28 日	岡 山 県	常務理事 齊藤 秀樹
四 国	平成 29 年 4 月 13 日	徳 島 県	常務理事 齊藤 秀樹
九 州	平成 30 年 2 月 15 日～16 日	鹿 児 島 県	常務理事 齊藤 秀樹

⑤ 活動促進モデル事業の実施<みずほ教育福祉財団助成事業>

本会において企画した高齢者の生きがいづくり・健康づくりに資する事業に取り組む市町村老連を募集し、事業資金を交付するとともに、必要な活動教材等を作成・配布した。

i. 老人クラブ介護予防・健康づくり推進事業

都道府県・指定都市老連を指定し、モデル市区町村老連による介護予防・健康づくりのリーダー養成とキャンペーンイベントに取り組んだ。

実 施 県：青森県、宮城県、山形県、群馬県、静岡県、長野県、石川県、岐阜県、
大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、島根県、岡山県、広島県、広島市
徳島県、宮崎県、鹿児島県 / 19老連

モデル数：33市区町村老人クラブ連合会

ii. 活動教材等の作成・配布

事業の効果的な促進を図るため、のぼり旗を作成・配布した。

規 格：のぼり旗「みんなでのぼそう！健康寿命」（45cm×180cm）

作 成 数：100枚

配 布 先：モデル市区町村老連（33か所）

⑥ 指導書等の作成・配布<国庫補助事業>

老人クラブ活動の促進を図るための資料を作成した。平成26年度から5か年計画で全国展開している「100万人会員増強運動」の都道府県・指定都市老連から紹介された横展開可能な実践事例を掲載した事例集を作成し、都道府県・指定都市老連及び市区町村老連へ配布するとともに、ホームページ上に掲載した。

○「老人クラブ『100万人会員増強運動』全国事例集」

規 格：A4判、12ページ

作成部数：120,000部

配 布 先：都道府県・指定都市老連、市区町村老連

⑦ 学習・活動教材の作成・普及

老人クラブの効果的な運営や活動に資するため、各種学習・活動教材を作成・普及した。

i. 老人クラブ活動日誌・老人クラブ会計簿・老人クラブ手帳

・老人クラブ活動日誌	12,252部
・老人クラブ会計簿	15,965部
・老人クラブ手帳	50,977部

ii. 老人クラブリーダー必携

・平成29年度版「老人クラブリーダー必携」	13,000部
-----------------------	---------

iii. 健康づくり関連教材

・いきいきクラブ体操CD（音楽）	346枚（延べ37,052枚）
・いきいきクラブ体操DVD（映像）	324枚（延べ18,532枚）
・高齢者向け体力測定ハンドブック	933部（延べ40,676部）
・高齢者向け体力測定手帳	4,790部（延べ88,545部）
・健康ウォーキングハンドブック	462部（延べ8,917部）
・健康ウォーキング手帳	1,984部（延べ28,243部）
・いきいきダイアリー	2,118部（延べ5,467部）
・老人クラブがめざす友愛活動	6,714部

iv. おばあちゃん世代の育児体験記

・「泣いて、笑って、昭和の子育て。」	512部（延べ7,003部）
--------------------	----------------

(2) 指導者・活動推進担当者の育成

系統的な研修事業を通じて、老人クラブリーダー及び職員の資質向上を図った。

① 老人クラブリーダー中央セミナーの開催<国庫補助事業>

都道府県・指定都市老連の中心的リーダー、若手リーダーを対象に、第35回目となる「老人クラブリーダー中央セミナー」を開催した。本年度は、「老人クラブ『100万人会員増強運動』」の目標達成に向けた情報交換を研究、協議を行った。

期 日：平成29年8月8日（火）～9日（水）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第3～5会議室」

参加対象：都道府県・指定都市老連の中心的リーダー・若手リーダー及び担当職員

参加人数：81名

研修内容：行政説明「介護保険制度をめぐる施策の動向と老人クラブへの期待」

厚生労働省老健局振興課長 込山 愛郎

基調報告「老人クラブ組織の発展に向けて」

全老連事務局長 谷野 香

活動報告

○ かがやきクラブ都筑～区老連活性化の取り組み～

横浜市都筑区老連会長 大澤 謙二

○ 未組織自治会への新しいクラブづくり

大阪府高石市老連副会長・若手部会長 柴田 正明

講演「超高齢・少子化・人口減少社会における高齢期～自律的にいきる、

同世代同士が支えあう」

中京大学教授 野口 典子

グループ協議「市区町村で進める、新設のクラブづくり、解散クラブの防止」

全体会

② 老人クラブリーダーブロック研修会の開催<国庫補助事業>

全国7ブロックにおいて、郡市町村老連のリーダーを対象に、開催地の都道府県・指定都市老連と共同で開催した。老人クラブを取り巻く状況を理解し、地域において果たすべき役割の確認を行った。本年度の参加者総数は2,052名であった。

<北海道ブロック>

期 日：平成29年11月7日（火）～8日（水）

会 場：札幌市南区 ホテルミリオーネ

参加人数：265名

研修内容：基調報告「老人クラブ組織の発展に向けて～全国運動・行動提案等～」

全老連事務局長 谷野 香

事例発表

○ 老人クラブりらの会の会員増強の取り組み

札幌市厚別区老人クラブりらの会事務局長 池戸 伸夫

○ 会員増強の取り組みについて

北海道小樽市新光東コスモス会会長 森 健丸

講話「せぼねの病気と骨粗しょう症～高齢者に多い脊椎の疾患～」

札幌スパインクリニック院長 渡邊 吾一

実践講座「うたのチカラ、音楽のちから～うたごえ便よりみちの活動をと

して～」

うたごえ便よりみち代表 石澤 佳子

全体会

<東北ブロック>

期 日：平成29年7月13日（木）～14日（金）

会 場：福島県郡山市 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

参加人数：466名

研修内容：基調報告「老人クラブ組織の発展に向けて～全国運動、行動提案等～」

全老連参事 河野 敦子

講話・実技「大往生したけりゃ～やれることがいっぱいあります～」

快フィットネス研究所長 吉井 雅彦

活動発表

○ 悩むヒマありゃ、動こうよ

岩手県久慈市侍浜松寿会会長 桑田 和雄

○ ご当地ソングでまちおこし

山形県米沢市万世地区老連会長 須貝 光雄

○ 老人クラブの魅力ある活動について

仙台市太白区八木山地区八興クラブ会長 長嶋 俊夫

全体会

<関東ブロック>

期 日：平成29年6月29日（木）～30日（金）

会 場：千葉市中央区 千葉ポートスクエア

参加人数：297名

研修内容：基調報告「老人クラブ組織の発展に向けてー全国運動、行動提案等ー」

全老連事務局長 谷野 香

講 演「認知症予防のABC～ノルディック・ウォークへの期待～」

東京都健康長寿医療センター研究所 医学博士 谷口 優

事例発表

○ ノルディック・ウォークによる健康づくり静岡県老連会長 松本 庄次

○ ノルディック・ウォークの取り組み 横浜市老連副理事長 烏田 次雄

○ ノルディック・ウォークで健康寿命をのばそう！

千葉市老連副会長 名取 信子

実技講習「ノルディック・ウォーク講習会」

全日本ノルディック・ウォーク連盟 ウォーキングライフマイスター

内藤 寿子

<東海・北陸ブロック>

期 日：平成29年7月6日（木）～7日（金）

会 場：岐阜県高山市 高山グリーンホテル

参加人数：177名

研修内容：基調報告「老人クラブ組織の発展に向けてー全国運動・行動提案等ー」

全老連参事 岡本 まゆみ

講 演「大楽に生きるワザ」

飛騨千光寺住職 大下大圓 師

事例発表

【若手・女性委員の活用でクラブが活性化している事例】

○ 今私たちが地域でできること～楽しく体操と見守り活動～

石川県内灘町鶴親会女性委員代表 水上 妙子

【サークル活動でクラブが活性化している事例】

- 「健康づくりリーダー養成講座」で活性化推進

三重県朝日町老連前会長 松橋 隆良

【クラブの復活又は新設された事例】

- 新地域支援事業への参画で新規クラブ結成ーサロン活動をとおして介護予防と仲間づくりー

福井県老連会長 八十島 幸雄

【地域支え合い活動に取り組んでいる事例】

- 介護予防に関する取り組み活動報告

富山県富山市奥田校下長寿会連合会会長 山田 茂夫

【その他の活動事例】

- 交通安全への取り組みーマスコットとともに交通死亡事故ゼロをめざしてー

愛知県稲沢市老連会長 柿沼 晋

- サロン開設で会員増強にチャレンジ

名古屋市南区老連理事 田口 欽郎

全 体 会

<近畿ブロック>

期 日：平成29年6月8日（木）～9日（金）

会 場：堺市堺区 ホテル「アゴーラリージュンシー堺」

参加人数：285名

研修内容：基調報告「老人クラブ組織の発展に向けてー全国運動、行動提案等ー」

全老連参事 河野 敦子

研究討議

【第1分科会「健康長寿と老人クラブ活動」】

- 健康長寿と老人クラブ活動について

堺市北区喜楽会会長 小野 美恵子

- 健康長寿と老人クラブ活動

和歌山県日高町老連会長 岡本 利昭

- 健康長寿と老人クラブ活動

大阪市西淀川区佃老人クラブ女性部長 安本 勝美

【第2分科会「新しい総合事業と地域支え合い運動」】

- 新しい総合事業と地域支え合い運動

大阪府島本町年長者クラブ連合会会長 杉本 茂

- 新しい総合事業と地域支え合い運動

奈良県生駒市老連女性部会長 藤田 照子

【第3分科会「老人クラブ活動における地域団体との連携」】

- NPO法人設立と「西の湖カフェ」の取り組み

滋賀県安土町老連会長 末房 松三

○ 老人クラブ活動における地域団体との連携

京都府与謝野町老連若手委員 糸井 範子

【第4分科会「会員増強運動の成果と課題」】

○ 人とのつながりを仲間、地域の輪で増やそう

神戸市中央区シニアクラブ山手5・6寿楽会会長 井上 末子

○ 会員増強運動の成果と課題 兵庫県芦屋市老連会長 大嶋 三郎

○ 会員増強運動の成果と課題

京都市左京区老連会長・修学院第二学区桜会会長 田中 輝美

講演「笑いは百楽の長」 関西大学人間健康学部教授 森下 伸也

全体会

<中国・四国ブロック>

期 日：平成29年6月29日（木）～30日（金）

会 場：広島県呉市 クレイトンベイホテル

参加人数：267名

研修内容：基調報告「老人クラブ組織の発展に向けてー全国運動・行動提案等ー」

全老連常務理事 齊藤 秀樹

分科会

【第1分科会「のぼそう！健康寿命」～健康づくりと介護予防、新地域支援事業に向けた取組み】

○ タケノコ・いきいき百歳体操の取組み

岡山県倉敷市真備地区箭田長寿会事務局長 金子 賢一

○ のぼそう！健康寿命 岡山市ゆうゆうクラブ会長 入澤 佳子

○ 創作ダンスで絆を強化 広島市幟町老連副会長 好木 恭江

○ 上高野長寿会の声かけ・見守り隊～笑顔見たくて こんにちは～

香川県上高野長寿会副会長 藤田 芳廣

【第2分科会「担おう！地域づくりを」～世代間交流で地域の絆づくり、安全・安心な地域づくり～】

○ 地域で活躍！シニア社会貢献活動

山口県周防シニアクラブ連合会会長 竹林 哲也

○ 地域の学校との連携 徳島県勝浦町老連会長 稲井 稔

○ 安全・安心な地域づくり～高齢者の自転車用ヘルメット着用促進について～
愛媛県松山市高齢クラブ連合会会長 今村 旭

【第3分科会「がんばる！若手委員会～若手の力でクラブの活性化と会員増強～」】

○ 若手会員の活動～会員増強の推進～

鳥取県境港市ことぶきクラブ連合会 元若手委員長 川口 昭一

○ 若手委員・女性委員による活動の推進

島根県日原地域老連会長 岡村 省

- 若手高齢者スポーツ等交流大会について～つなぎ、広げ、融合する～
高知県四万十町老連会長 植田 浩三
- 講演「呉の元気を発信する大和ミュージアム」
呉市参与・呉市海事歴史科学館「大和ミュージアム」館長 戸高 一成
- 全体会（総括・まとめ）
特定非営利活動法人アジア・エイジング・ビジネスセンター理事長
前全老連評議員 小川 全夫

<九州ブロック>

- 期 日：平成29年7月6日（木）～7日（金）
- 会 場：佐賀県佐賀市 ホテル「グランデはがくれ」
- 参加人数：295名
- 研修内容：基調報告「老人クラブ組織の発展に向けてー全国運動、行動提案等ー」
全老連常務理事 齊藤 秀樹

研究部会

【第1研究部会「健康づくり・介護予防活動の推進」】

- 健康づくり・介護予防活動の推進
鹿児島県西之表島市老連会長 小林 鐵徳
- 体力測定にて、おのれを知る
長崎県長崎市老連事務局長 角西 好人
- 介護予防に繋がる健康づくりの取り組み
沖縄県浦添市老連副会長 与那嶺 良子

【第2研究部会「友愛活動（高齢者の相互支え合い）の推進」】

- 年長者の生きがいと創造の事業、八幡東交通安全高齢者宅訪問隊について
北九州市八幡東区老連会長 富永 種春
- 支えられる側から支える側へ
福岡市東区ねりんクラブ連合会副会長 八尋 和江
- 友愛生活支援活動について
宮崎県宮崎市リベラルーツ葉さんさんクラブ会長 上野 和彦

【第3研究部会「会員増強（100万人会員増強運動）の推進」】

- 会員増強の推進
熊本県芦北町老連会長 鬼塚 昌久
- 地域住民とのふれ合いで会員増強
大分県豊後大野市上赤嶺若竹老人クラブ会長 玉田 照光
- 九十九の会における会員増強運動の取組について
佐賀県佐賀市新栄校区九十九の会会長 青木 昭生
- 講演「お迎えが来る迄、老後を健やかに」
佐賀県老連副会長 高松 昭三

全体会

③ 女性リーダーセミナーの開催<国庫補助事業>

都道府県・指定都市老連の女性リーダーを対象に、第29回目となる「女性リーダーセミナー」を開催した。本年度は、全国的な取り組みを展開している「100万人会員増強運動」と「老人クラブ高齢消費者被害防止キャンペーン」を取り上げ、これらの活動の推進に向けて「示そう！女性パワー」をテーマに、市区町村老連における中心的な女性リーダーを対象に、日ごろの取り組みを持ち寄り、活動の推進について学び、理解を深めた。

期 日：平成29年11月16日（木）～17日（金）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第3～5会議室」

参加対象：都道府県・指定都市老連の女性リーダー及び担当職員

参加人数：98名

研修内容：基調報告「老人クラブ組織の発展に向けて」

全老連事務局長 谷野 香

事例発表「役割を担って、解散クラブを防ごう！～単位クラブ会長の役割と後継者育成について」

仙台市老連副会長・女性部長 久道 悦子

広島市老連理事・女性委員長 木原 和子

熊本県老連副会長・女性委員長 関 祐子

ワークショップ「気づいてつなごう！高齢者の消費者トラブル防止のために」

全国消費生活相談員協会 鈴木 伸子

全体会

④ 健康づくり中央セミナーの開催

老人クラブが全国的にすすめる健康づくり・介護予防活動の効果的な推進に資するため、都道府県・指定都市老連が行う健康づくり事業に協力・支援が期待できる者（健康づくり推進員）を対象に、第15期目となる「健康づくり中央セミナー」を開催した。総合的な健康づくりの課題に対する学習の機会を提供し、第1期から15期までに育成した健康づくり推進員は延べ955名となった。

期 日：平成30年2月21日（水）～23日（金）

会 場：神奈川県葉山町 中央福祉学院研修施設「ロフォス湘南」

参加対象：健康づくり事業への協力・支援を期待できる75歳未満の者及び健康づくり事業をコーディネートする都道府県・指定都市・市区町村老連の職員

参加人数：65名

研修内容・講師

区 分	内 容	講 師	履修時間	
基礎講座	○介護予防と老人クラブ	国際医療福祉大学大学院教授 竹内孝仁	1.5	
専門講座	運動	○高齢期の運動による健康づくり (講義・実技)	順天堂大学名誉教授 武井正子	2.5
	栄養	○高齢期の食生活のあり方	日本栄養士会専務理事 迫 和子	1
	医療	○上手な医療の受け方	日本医師会副会長 今村 聡	1
	歯 口腔	○歯・口腔の健康づくり	日本歯科医師会地域保健委員会 ワーキングメンバー 渡邊 裕	1
	薬	○薬の正しい使い方	日本薬剤師会一般用医薬品等委員会 委員 濱野明子	1
	事故 防止	○高齢者に多い事故とその予防	東京消防庁防災部防災安全課 生活安全担当係長 藤崎進稔	1
グループ学習	○健康づくりの輪を広げよう！	全国老人クラブ連合会事務局	1	
まとめ	○健康づくり推進員に期待する	全国老人クラブ連合会常務理事 齊藤秀樹	1	
合 計			11	

⑤ 在宅福祉を支える友愛活動セミナーの開催<国庫補助事業>

地域で援助を必要とする高齢者の安否確認や生活を支援する「友愛活動」を実践している市町村段階のリーダーを対象に、第23回目となる「在宅福祉を支える友愛活動セミナー」を開催した。本年度は、各自治体で進められている地域支え合いの取り組みに友愛活動を通じて、どのように参画していくか事例発表や情報交換をとおして理解を深めた。

期 日：平成30年1月31日（水）～2月1日（木）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第3～5会議室」

参加対象：友愛活動を実践し、活動の推進にあたっている市町村老連のリーダー及び友愛活動をコーディネートする都道府県・指定都市・市区町村老連の職員

参加人数：101名

研修内容：基調報告「老人クラブの全国運動・行動提案について」

全老連事務局長 谷野 香

事例発表「新地域支援事業における老人クラブの取り組み」

○ 二戸市老連における新地域支援事業の取り組み

岩手県二戸市老連会長 一本木 哲男

○ 川越市老連における友愛実践モデル事業の取り組みについて

埼玉県川越市老連理事・友愛推進委員会委員長 小林 松十郎

講演 『『新地域支援事業』における老人クラブへの期待』

医療経済研究・社会保険福祉協会

医療経済研究機構研究員兼研究総務部次長 服部 真治

分散会 「新地域支援事業における市区町村老連の取り組みについて」

全体会

⑥ 新任事務局長・職員研修会の開催<国庫補助事業>

老人クラブ活動の円滑な支援にあたるため、都道府県・指定都市老連の新任事務局長・活動推進員等事務局職員を対象に開催した。老人クラブ活動の現状や課題、全国的な動向等を把握するために必要な研修及び情報提供を行った。

期 日：平成29年4月21日（金）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第4～5会議室」

参加対象：都道府県・指定都市老連の新任事務局長・活動推進員等事務局職員

参加人数：32名

内 容：研修1 「老人クラブの歴史と現状・課題」 全老連事務局長 谷野 香

研修2 「埼玉県老連におけるリーダー養成の取り組み」

埼玉県老連常務理事・事務局長 落合 一弘

DVD上映 「同世代での助け合い運動～在宅福祉を支える友愛活動～」

（愛知県阿久比町 宮津山田達者会）

研修3 「全老連の事業等について」

全老連参事 河野 敦子

⑦ 活動推進担当者研究セミナーの開催<国庫補助事業>

老人クラブ活動の支援にあたるため、それぞれの都道府県・指定都市老連に配置されている活動推進員等事務局職員を対象に、第42回目となる「都道府県・指定都市老連活動推進担当者研究セミナー」を開催した。高齢者を取り巻く様々な課題に対応すべく、活動を促進・支援する活動推進担当者の役割は大きく、実務担当者として理解を深め、企画推進力を培い、老人クラブ活動の推進に向けて参考となる情報の共有化を図った。

期 日：平成29年8月1日（火）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第3～5会議室」

参加対象：都道府県・指定都市老連の活動推進員等事務局職員

参加人数：29名

研修内容：基調説明1 「老人クラブ『100万人会員増強運動』の推進について」

全老連事務局長 谷野 香

基調説明2 「老人クラブ保険について」

全老連保険係

グループ協議 「ホームページの活用について」

全体会

(3) 顕彰の実施

長年にわたる活動の功労者や優れた取り組みを顕彰する表彰、活動賞を実施した。

① 表 彰

高齢者の取り組み意欲の向上と活動の充実発展に資するため、老人クラブの育成発展に功績のあった個人及び団体に対し表彰を行った。また、併せて今回から5年に一度となる厚生労働大臣表彰が行われた。受章者及び受章団体には全国老人クラブ大会の席上で表彰状を授与するとともに、大会参加者には受章者名簿を配布した。また、大会終了後、月刊「全老連」1月号（大会報告号）においても受章者名簿を掲載し、公表を行った。

ア. 厚生労働大臣表彰

対 象：老人クラブ育成功労者、優良老人クラブ、優良市区町村老人クラブ連合会

受章者・団体：老人クラブ育成功労者	98名
優良老人クラブ	49団体
優良市区町村老人クラブ連合会	46団体

イ. 全老連会長表彰

対 象：育成功労者、優良老人クラブ、優良郡市区町村老人クラブ連合会、永年勤続者

選 考：表彰審査委員会において選考

期 日：平成29年7月24日（月）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第6会議室」

メンバー：全老連副会長、東京都老連会長 増田 時枝
全老連理事、大阪市老連理事長 中 保昌
全老連常務理事 齊藤 秀樹

受章者・団体：育成功労表彰	114名
優良老人クラブ表彰	54団体
優良郡市区町村老人クラブ連合会表彰	61団体
永年勤続表彰	21名

② 活動賞

優れた実践活動の普及拡大を図るため、他の模範となる活動に取り組んでいる老人クラブ並びに市区町村老連等を対象に「活動賞」「100万人会員増強運動特別賞」を実施した。受賞団体には当該都道府県・指定都市老連を通じて賞状を伝達した。

また、月刊「全老連」誌上（活動賞：10月号・11月号、特別賞：12月号）において、取り組み内容を紹介、併せて受賞団体名を掲載した。

対 象：老人クラブ、地区老連、郡市区町村老連

選 考：表彰審査委員会において選考（前記「① 表彰」参照）

受賞団体：活動賞 106団体（クラブ75、地区老連15、市区町村老連16）

特別賞 115団体（クラブ76、地区老連8、市区町村老連31）

2. 老人保健福祉思想の普及啓発

全国運動の推進、全国老人クラブ大会の開催、地域文化伝承館の開設、広報活動等を通じて、老人保健福祉思想の普及啓発を図った。

① 「老人の日・老人週間」キャンペーン運動の展開

老人保健福祉思想の普及啓発を図るため、行政をはじめ保健・福祉・医療・介護等の関係団体と連携して、「老人の日」（9月15日）及び「老人週間」（9月15日～21日）の趣旨や意義を広く国民に周知するキャンペーン運動を展開した。

標 語：「みんなで築こう 安心と活力ある健康長寿社会」

実施期間：9月15日の「老人の日」から21日までの「老人週間」の1週間

主 唱：全国老人クラブ連合会、内閣府、厚生労働省、消防庁、全国社会福祉協議会、長寿社会開発センター、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、日本看護協会、日本社会福祉士会、日本介護福祉士会

協 賛：NHK、日本新聞協会、日本民間放送連盟

② 高齢者の孤立を防ぐ仲間づくり活動の展開

国民的課題である高齢者の孤立を防ぎ、互いに支え合うネットワークを構築するため、全国的な仲間づくり活動として「老人クラブ『100万人会員増強運動』」（第4年次）を展開した。本年度は、9月に「全国事例集」（前記1-(1)-⑥参照）を作成、また6府県市老連の協力を得た「会員アンケート」（1,711名回答）を実施して、運動推進の参考とした。

運動スローガン：「総力を結集して 全国100万人会員増強を達成しよう！」

実施期間：平成26年度～平成30年度（5カ年）

主 唱：全国老人クラブ連合会、都道府県・指定都市老人クラブ連合会

実施主体：単位クラブ、市区町村老人クラブ連合会

運動目標：全国100万人会員増強

共通実施：①勧誘から始めよう！ ②クラブをPRしよう！ ③クラブをつくろう！

ア. 運動第3年次（平成28年度）の取り組み結果

i. 目標と結果

◆目標：全国約20.7万人増加 ⇒ 結果：約18.3万人減少

○増加の目標に対して、現状を下回る結果となった。

ii. 都道府県老連の状況

◆目標達成、会員増加ともなし

iii. 市区町村老連の状況

◆会員増加：270老連（15%） ◆増減なし：55老連（3%）

iv. 新規会員の状況（30県から提出）

◆年齢別：高年会員45%・若手会員55%

◆男女別：男性41%・女性59%

○現状の男女比と比較して女性の加入がやや低調。

v. 会員増市区町村老連アンケート結果（128老連提出）

・クラブ数の増減：96クラブ増（平均0.7クラブ）

141クラブの増（平均1.1クラブ）、45クラブの減少（平均0.4クラブ）

・会員増加のポイント及び効果をあげた取り組み

- | | |
|--------------------|-----------|
| ① 声かけ、戸別訪問 | 81老連（63%） |
| ② 活動による勧誘、新行事の実施 | 70老連（55%） |
| ③ 他機関との連携（自治会等） | 49老連（38%） |
| ④ 組織内推進（実績公表や意識づけ） | 40老連（31%） |
| ⑤ クラブ新設・解散防止 | 31老連（24%） |
| ⑥ 広報・PR活動 | 20老連（23%） |

イ. 運動第3年次までの会員数実績

◆運動開始時（平成25年）を基準とした28年の会員数割合：全国平均9.8%減少

○都道府県・指定都市老連ごとに差が大きい（最小1.2%減～最大20.2%減）。

ウ. 最終年次の運動の重点について

最終年次の運動に際しては、まず現在の会員数の維持に努め、「今後2カ年の運動の重点について」で掲げた次の重点項目に引き続き取り組むこととした。

1. 市区町村老連との協議の場づくり
2. 新規クラブの立ち上げ
3. 解散クラブの防止
4. 単位クラブは純増をめざす

③ 全国三大運動（健康・友愛・奉仕）の提唱

老人保健福祉思想の普及啓発を図るため、高齢者自らが取り組む「健康」（健康づくり・介護予防活動）、「友愛」（高齢者が相互に支え合う活動）、「奉仕」（ボランティア活動）の3つの活動を提唱し、全国的な推進を図った。

実施期間：「老人の日・老人週間」を重点期間に通年

主 唱：全国老人クラブ連合会、都道府県・指定都市老人クラブ連合会

実施主体：単位クラブ、市区町村老人クラブ連合会

ア. 健 康

- i. 健康学習・講座等の普及拡大

- ii. いきいきクラブ体操・高齢者向け体力測定・健康ウォーキングの普及推進
- iii. 健康づくり関係団体（地域包括支援センター等）との連携
- iv. 都道府県・指定都市老連が実施する健康づくり大学校・老連大学校への支援

イ. 友 愛

- i. 訪問・サロン（集い）・情報提供・暮らしの支え合いの活動推進
- ii. 新地域支援事業への参画推進
- iii. 認知症・孤立死防止・高齢者虐待等の学習・実践と地域関係者との連携

ウ. 奉 仕

- i. 全国一斉「社会奉仕の日」の推進
- ii. 「老人クラブ高齢消費者被害防止キャンペーン」の実施

高齢消費者被害が大きな社会問題となる中、新たな実施期間を設けて、引き続き被害防止に取り組むこととした。合わせて希望する市区町村老連に推進用具の提供を行った。

実施期間：平成29年度～平成31年度（3カ年）

主 唱：全国老人クラブ連合会、都道府県・指定都市老人クラブ連合会

実施主体：単位クラブ、市区町村老人クラブ連合会

実施内容

- ・単位クラブにおける「見守りサポーター」の設置
- ・関係機関や団体と連携した高齢消費者被害防止活動の展開

- iii. 地域（子ども）見守り、防犯・防災、交通安全、災害緊急時等の対策と実践

④ 全国老人クラブ大会の開催

老人保健福祉思想の普及啓発を図るため、地域において老人クラブ活動に取り組む実践者が一堂に集い活動交流や式典を行う、第46回目となる「全国老人クラブ大会」を開催した。本大会は、京都府老連と共同で主催し、全国から約1,600名の参加を得た。

また、第47回大会に向けた準備を進めた。

ア. 「第46回全国老人クラブ大会」の開催

初日は事例発表をとおして発展方向を探る2つの部会、日頃の活動を舞台上で表現する演じる活動部会の計3部会に分かれ、2日目は一堂に会して講演と式典を開催した。今回で4回目となる演じる活動部会では、全国公募により6団体が出演し、金賞（千葉県）、銀賞（神戸市・奈良県）、奨励賞（京都府・兵庫県・岡山市）をそれぞれ受賞した。また、演じる活動部会「舞台発表」については映像記録（DVD）を作成し、頒布した。

メインテーマ：のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを

主 催：全国老人クラブ連合会、京都府老人クラブ連合会

後 援：厚生労働省、全国社会福祉協議会、長寿社会開発センター
京都府、京都府社会福祉協議会、京都SKYセンター

期 日：平成29年10月18日（水）～19日（木）

日程・会場：第1日 活動交流部会 13:30～16:30 みやこめっせ 2会場

ロームシアター京都

第2日 講演・式典 9:30～12:00 ロームシアター京都

参加対象：老人クラブ関係者、行政並びに社会福祉協議会等の担当役職員

参加人数：1,650名

講演・式典内容

司会 藤本 恭子

[オープニング] 9:20～9:30

「手話コーラス」 京都府八幡市老人クラブ連合会 女性部

[講演] 9:30～10:20

「心の荷物をおろす108の知恵～一人一人が輝く生き方に～」

真宗大谷派僧侶・アナウンサー 川村 妙慶

[アトラクション] 10:20～10:40

「宮津祭『浮太鼓』」 和貴宮神社氏子

[式典] 11:00～12:00

歓迎の言葉 京都府老連会長 香月 芳雄

国歌斉唱

黙 祷

挨拶 全老連会長 斎藤 十朗

表彰 厚生労働大臣表彰

個人（育成功労者） 代表 大阪府 山下 修

団体（優良老人クラブ・優良市区町村老人クラブ連合会）

代表 東京都 中村熟年クラブ松寿会

全老連会長表彰

個人（育成功労・永年勤続） 代表 京都府 小田 貞彦

団体（優良クラブ・優良郡市区町村老人クラブ連合会）

代表 宮崎県 都城市高齢者クラブ連合会

祝 辞 厚生労働大臣 加藤 勝信

京都府知事 山田 啓二

京都府議会議長 村田 正治

京都市長 門川 大作

宣言朗読 京都府老連副会長・女性委員長 中川 容子

次回大会報告 沖縄県老連会長 山内 盛芳

歌「青い山脈」 (京都府八幡市老人クラブ連合会 女性部)

閉会の言葉 全老連副会長、島根県老連会長 安達 伸次

活動交流部会内容

<第1部会 老人クラブ活動を新地域支援事業に活かす>

事例発表「サロンがつなぐ地域の支え合い」

宮城県石巻市老連副会長・女性部長 渋谷 敏子

「地域組織とボランティアで運営する『三浦地区ふれあい館』」

長崎県大村市三浦地区老連会長 平石 廣輝

「居場所づくり・介護予防『ゆるりんサロン』の立ち上げと運営－新地域支援事業の受託－」

熊本県人吉市老連会長 三倉 重成

座長	八十島 幸雄	福井県老連会長
同	白根沢 彰	栃木県老連事務局長
助言者	大塚 保信	大阪ソーシャルワーカー協会会長
幹事	小岩 いづみ	広島県老連活動推進員

参加人数 377名

<第2部会 組織的推進による会員増強運動の展開>

事例発表「会員増強は『地域における高齢者同士の友情と絆づくり』から－リーダー（縦糸）と会員（横糸）の絆づくり－」

京都府綾部市老連会長 田中 丈夫

「組織改革でクラブ運営の活性化をはかる」

福岡県那珂川町シニアクラブ連合会会長代行 神代 秀富

「会員増強の合言葉『否定論の山に向かってプラス志向をヤッホー』」

広島市佐伯区老連会員増強プロジェクト委員会委員長 井唯 瑞彦

<誌上発表>「魅力ある老人クラブで会員増を」 兵庫県加西市老連会長 吉田 廣

座長	大辻 正忠	神戸市老連理事長
同	磯村 勉	大阪府老連事務局長
助言者	中川 晴夫	元 日本福祉大学教授
幹事	澤崎 千香	滋賀県老連主事

参加人数 356名

<第3部会 演じる活動（舞台発表）>

舞台発表「創作舞踊劇『おらが町横芝光』」

千葉県横芝光町 横芝光町生き生きクラブ稲穂会

「舞踊、演劇おかやま桃太郎伝説」

岡山市南区芳泉学区泉田白寿会、南輝学区女性部

「演劇『三方一両損』」

奈良県高取町老連慈友会

「コーラス『みなさんと共に楽しむ男性コーラス』」

兵庫県芦屋市老連メンズコーラス

「演劇『丹後七姫伝説』」

京都府京丹後市老連

「創作健康ダンス『みんなで踊って健やかに』」

神戸市垂水区霞ヶ丘健寿会、東舞子青松会、矢元台むつみ会

司 会 幹 事	山岡 百合子 安谷屋 総一郎	奈良県老連主任 沖縄県老連主事
------------	-------------------	--------------------

参加人数 703名

大会宣言

宣 言

高齢化の進展しているわが国では、高齢者が地域で安心して暮らし続けられる仕組みとして、地域包括ケアシステムの構築をめざしています。

本年度からすべての市町村で実施される新地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業）では、多様な主体による多様なサービスが求められており、老人クラブの活動経験を活かした、積極的な参画が期待されているところです。

そのようななか、老人クラブが取り組んできた高齢者が支え合う友愛活動、健康づくり活動は、一層重要性を増しています。行政や自治会、社会福祉協議会などの関係団体と共に、すべての人がいきいきと生活できる地域共生社会に向けた取り組みを推進していきたいと存じます。

また、仲間の輪を広げる会員増強運動は、5年計画の4年目を迎えています。これまでの先進例に学びながら、組織をあげて、さらなる取り組みの強化に努めてまいります。

世界遺産をはじめ多くの文化財の宝庫である古都・京都に集う私たちは、「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」のメインテーマのもと、次の事項の実践を誓い、ここに宣言します。

- 一、高齢者の暮らしを支える「新地域支援事業」への参画
- 一、健康寿命をのぼす「健康づくり活動」、支え合う「友愛活動」の充実
- 一、老人クラブ「100万人会員増強運動」の推進
- 一、「高齢消費者被害防止キャンペーン」の展開
- 一、高齢者の尊厳が守られる社会保障制度の確立

平成29年10月19日

第46回全国老人クラブ大会

大会関係会議：活動交流部会協議打合せ会

日 時 平成29年10月18日（水） 12:00～13:00

会 場 みやこめっせ「第2・3会議室」

内 容 活動交流部会座長、助言者、幹事による打合せ

大会報告：「第46回全国老人クラブ大会報告号」として、月刊「全老連」1月号を都道府県・指定都市老連を通じて大会参加者等に配布した。

内 容 大会概要、宣言、祝辞、表彰受章者一覧、活動交流部会報告等

イ. 次回以降全国老人クラブ大会の準備

i. 平成30年度、第47回大会の準備

主 催：全国老人クラブ連合会、沖縄県老人クラブ連合会

期 日：平成30年12月4日（火）～5日（水）

⑤ 全国健康福祉祭における「地域文化伝承館」の開設

国及び開催地都道府県・指定都市等が主催する高齢者の文化とスポーツの祭典「全国健康福祉祭」（ねんりんピック）において、老人保健福祉思想の普及啓発を図るため、高齢者が日頃地域で取り組んでいる伝承活動や生きがいと健康づくり活動を披露するパビリオン「地域文化伝承館」を開設し、同世代や他世代との交流を行った。

ア. 第30回全国健康福祉祭あきた大会における第27回「地域文化伝承館」の開設

第30回全国健康福祉祭あきた大会（ねんりんピック秋田2017）において、第27回目となる「地域文化伝承館」を開設し、日頃の活動の成果を披露するとともに、世代間の交流を行った。

主 催：厚生労働省、秋田県、長寿社会開発センター

主 管：全国老人クラブ連合会、秋田県老人クラブ連合会

期 日：平成29年9月9日（土）～11日（月）

会 場：秋田県秋田市 秋田拠点センターアルヴェ

内 容：秋田県内市町村老人クラブ連合会による実演・体験交流・発表

・地域文化・生活文化の伝承活動

・地域に伝わる民俗芸能・郷土芸能の伝承活動

・創意・工夫を活かして取り組んでいる健康・生きがいづくりの活動

PR・報告：月刊「全老連」7月号及びホームページ上において、事前PR記事を掲載して広く周知を図るとともに、開設後、11月号において取り組みの概況を報告した。

イ. 第30回全国健康福祉祭あきた大会への参加協力

秋田県内で開催された第30回全国健康福祉祭あきた大会に積極的に参加協力した。

テ ー マ：「秋田からつながれ！つらなれ！長寿の輪」

主 催：厚生労働省、秋田県、長寿社会開発センター

期 日：平成29年9月9日（土）～12日（火）

開 催 地：秋田県内13市3町2村

ウ. 第31回全国健康福祉祭とやま大会における第28回「地域文化伝承館」の準備

平成30年度に開催の第31回全国健康福祉祭とやま大会（ねんりんピック富山2018）において、開催地である富山県老連が主体となって「地域文化伝承館」を開設するための準備作業を進めた。

i. 第31回全国健康福祉祭とやま大会の概要

テーマ：「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」

主催：厚生労働省、富山県、長寿社会開発センター

期日：平成30年11月3日（土）～6日（火）

会場：富山県内10市4町1村

ii. 第28回「地域文化伝承館」の概要

主催：厚生労働省、富山県、長寿社会開発センター

主管：全国老人クラブ連合会、富山県老人クラブ連合会

期日：平成30年11月3日（土）～5日（月）

会場：富山県富山市 とやま自遊館

⑥ 月刊誌の発行

広報誌・月刊「全老連」を発行し、老人保健福祉思想の啓発を図り、各地の老人クラブ活動の先進事例や高齢者をめぐる社会の動き、生活関連情報等について、都道府県・指定都市老連、市区町村老連、関係者等へ配布した。

また、各都道府県・指定都市老連が発行する広報誌を一括して収集し、全国の都道府県・指定都市老連へ送付した。

⑦ ホームページの開設

老人クラブの組織や活動の紹介、高齢者に関わる情報などを掲載したホームページを開設し、公開した。「活動紹介」コーナーでは、年間をとおして全都道府県・指定都市老連の協力を得て、事例掲載を行った。

3. 高齢者に関わる調査研究

高齢者の保健福祉の増進と老人クラブ活動の充実発展に資するため、各種委員会を設置・開催し、調査研究を行った。

① 政策委員会の設置・開催

政策委員会を開催して、高齢者の生活と福祉の向上並びに老人クラブ活動の発展に資する制度施策について調査研究を行うとともに、その対策活動を推進した。本年度は特に、老人クラブ関係予算への対応等について研究・協議を行った。

また、保健・福祉・医療・介護・年金等の社会保障制度、住宅・公共交通・情報通信（IT）のバリアフリー（障壁解消）化、防犯・防災・交通事故防止対策など、高齢者に関わる制度施策の充実発展に資するため、当事者としての立場から、厚生労働省をはじめ国土交通省、消費者庁等の行政機関や関係団体が設置した審議会、委員会、懇談会、研究会等に参画

し、提言・要望を行った。

ア. 幹事会の開催

期 日：平成29年6月12日（月）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第2会議室」

内 容：・幹事長の選任について

【政策委員会委員・幹事名簿】

<委 員>

委員長	増 田 時 枝	全老連副会長、東京都老連会長
副委員長	吉 井 栄一郎	政策委員会幹事長、東京都老連事務局長
委 員	松 寿 庶	全老連副会長
	齊 藤 秀 樹	全老連常務理事
	兼 子 久	全老連理事
	藪 本 冬 樹	政策委員会副幹事長、大阪市老連事務局長

<幹 事>

幹 事 長	吉 井 栄一郎	東京都老連事務局長〔再掲〕
副幹事長	藪 本 冬 樹	大阪市老連事務局長〔再掲〕
幹 事	戸 嶋 正 紀	秋田県老連事務局長
	大 藪 定 信	千葉県老連事務局長
	愛 場 巖	富山県老連事務局長
	松 浦 孝 治	広島市老連事務局長
	青 野 達 郎	愛媛県老連事務局長
	本 田 哲 朗	長崎県老連事務局長

イ. 行政機関・関係団体の審議会・委員会等への参画

機関・団体名	審議会・委員会等の名称	就 任 者
厚生労働省	社会保障審議会臨時委員 (介護給付費分科会)	政策委員会委員 全老連常務理事 齊藤 秀樹
	社会保障審議会臨時委員 (介護保険部会)	政策委員会委員 全老連常務理事 齊藤 秀樹
	社会保障審議会臨時委員 (医療保険部会)	政策委員会委員 全老連理事 兼子 久
	社会保障審議会専門委員 (統計分科会生活機能分類専門委員会)	政策委員会委員 全老連常務理事 齊藤 秀樹
(厚生労働省関係) 株式会社 日本総合研究所	介護保険サービスと保険外サービスの組み合わせ等に関する調査研究事業検討委員会委員	政策委員会委員 全老連常務理事 齊藤 秀樹
エム・アール・アイリサーチ アソシエイツ 株式会社	介護職員に求められる資質確保等に関する事業検討委員会委員	政策委員会委員 全老連常務理事 齊藤 秀樹
社会福祉法人 浴風会	認知症対応型通所介護事業の適正な整備及び専門的な認知症ケアに関する調査研究事業検討委員会委員	全老連総務部長 正立 斉

国土交通省	バリアフリー法及び関連施策のあり方に関する検討会委員	政策委員会委員 全老連常務理事 齊藤 秀樹
	高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計のあり方に関する検討委員会委員	政策委員会委員 全老連常務理事 齊藤 秀樹
	パーキングパーミット制度の導入促進方策検討会構成員	政策委員会委員 全老連常務理事 齊藤 秀樹
国土交通省関東運輸局	関東管内バリアフリーネットワーク会議委員	埼玉県老連常務理事・事務局長 落合 一弘
(国土交通省関係) 一般財団法人 国土技術研究センター	ホテル又は客室基準の見直しに関する検討会委員	政策委員会委員 全老連常務理事 齊藤 秀樹
公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団	バリアフリー整備ガイドライン改訂検討委員会委員 (旅客施設・車両)	全老連事務局長 谷野 香
社会システム 株式会社	移動等円滑化のために必要な旅客施設又は車両等の構造及び設備に関する基準等検討委員会委員	全老連事務局長 谷野 香
	公共交通機関等における障害者等への対応に係る職員教育の充実に関する調査研究・交通事業者向け接遇ガイドライン作成等のための検討委員会委員	全老連事務局長 谷野 香
消費者庁	消費者教育推進会議委員	政策委員会委員 全老連常務理事 齊藤 秀樹
	高齢消費者・障害消費者見守りネットワーク連絡協議会構成員	全老連事務局長 谷野 香
社会福祉法人 全国社会福祉協議会	社会福祉制度・予算対策委員会委員	政策委員会副委員長・幹事長 東京都老連常務理事・事務局長 吉井 栄一郎
一般財団法人 シルバーサービス振興会	シルバーマーク基準認定委員会委員	政策委員会委員 全老連常務理事 齊藤 秀樹
	情報公開支援業務「読み解きガイドブック作成に関する検討会」委員	政策委員会委員 全老連常務理事 齊藤 秀樹
公益財団法人 健康体カづくり事業財団	健康日本21推進全国連絡協議会幹事	全老連事務局長 谷野 香

ウ. 老人福祉関係予算等への対応

i. 平成30年度予算をめぐる動向

平成30年度予算案は、2月28日に衆議院を通過し、その後、3月28日の参議院本会議において可決・成立した。一般会計総額は6年連続で過去最大となる97兆7,128億円で対前年度当初予算比0.3%(2,581億円)の増、内、社会保障関係費は32兆9,732億円で同1.5%(4,997億円)の増となった。

老人クラブ関係予算は、8月末の厚生労働省予算概算要求時点において本年度同額の26億1千万円が計上されたが、その後、予算編成の過程で25億9千万円に減額され、12月の政府案の閣議決定、予算の成立をもって確定することとなった。

<平成30年度老人クラブ関係予算の概要>

	平成29年度	平成30年度
i) 高齢者地域福祉推進事業	2,610,664千円	→ 2,591,234千円
ア) 老人クラブに対する助成		

イ) 市町村老連に対する助成

- ・活動促進事業
- ・健康づくり・介護予防支援事業
- ・地域支え合い事業
- ・若手高齢者組織化・活動支援事業
- ・市町村老連活動支援体制強化事業

ウ) 都道府県・指定都市老連に対する助成

- ・老人クラブ等活動推進事業
- ・健康づくり・介護予防支援事業
- ・地域支え合い事業
- ・若手高齢者組織化・活動支援事業

ii) 全国老人クラブ連合会助成費 8,856 千円 → 8,856 千円

ii. 全社協政策委員会との連携

吉井栄一郎政策委員会副委員長・幹事長を全社協政策委員会委員に選出し、連携を図った。

エ. 全老連「政策通報」の発行

都道府県・指定都市老連に対し、高齢者をめぐる制度・施策の動向や老人福祉・老人クラブに関わる予算の状況などについて速やかに伝達するため、「政策通報」(第86号)を発行した。

オ. 政策委員会等の経過

月	全老連政策委員会等の動向	国・審議会等の動き
4月		21日 全社協政策委員会幹事会(第1回) 26日 社会保障審議会医療保険部会(104回) 社会保障審議会介護給付費分科会(137回)
5月	31日 理事会(定時)	12日 社会保障審議会介護給付費分科会(138回) 17日 社会保障審議会医療保険部会(105回) 24日 社会保障審議会介護給付費分科会(139回)
6月	12~13日 事務局長会議(第1回) 19日 評議員会(定時)	7日 社会保障審議会介護給付費分科会(140回) 15日 全社協政策委員会総会・幹事会(第2回) 18日 第193回通常国会閉会 21日 社会保障審議会介護保険部会(72回) 社会保障審議会介護給付費分科会(141回)
7月		5日 社会保障審議会介護給付費分科会(142回) 19日 社会保障審議会介護給付費分科会(143回)
8月		4日 社会保障審議会介護給付費分科会(144回) 23日 社会保障審議会介護給付費分科会(145回) 25日 全社協政策委員会幹事会(第3回) 31日 厚労省、平成30年度予算概算要求を財務省へ提出

9月		6日 社会保障審議会介護給付費分科会 (146回) 社会保障審議会医療保険部会 (106回) 13日 社会保障審議会介護給付費分科会 (147回) 28日 第194回臨時国会開会 (～同日)
10月	10日 「介護の現場を守るための署名」文書発出	4日 社会保障審議会医療保険部会 (107回) 27日 社会保障審議会介護給付費分科会 (148回)
11月		1日 第195回特別国会開会 (～12月9日) 社会保障審議会介護給付費分科会 (149回) 8日 社会保障審議会介護給付費分科会 (150回) 社会保障審議会医療保険部会 (108回) 10日 社会保障審議会介護保険部会 (73回) 15日 社会保障審議会介護給付費分科会 (151回) 20日 全社協政策委員会幹事会 (第4回) 22日 社会保障審議会介護給付費分科会 (152回) 24日 社会保障審議会医療保険部会 (109回) 29日 社会保障審議会介護給付費分科会 (153回)
12月	4～5日 会長会議 25日 「政策通報」(第86号)発行	1日 社会保障審議会介護給付費分科会 (154回) 6日 社会保障審議会介護給付費分科会 (155回) 7日 社会保障審議会医療保険部会 (110回) 13日 社会保障審議会介護給付費分科会 (156回) 22日 全社協政策委員会幹事会 (第5回) 平成30年度政府予算案閣議決定 平成30年度税制改正大綱閣議決定
1月		17日 社会保障審議会介護給付費分科会 (157回) 18日 厚労省全国厚生労働関係部局長会議 22日 第196回通常国会開会 26日 社会保障審議会介護給付費分科会 (158回)
2月	7日 事務局長会議 (第2回)	16日 全社協政策委員会幹事会 (第6回)
3月	15日 理事会 (定時) 評議員会 (臨時)	6日 厚労省全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議 28日 平成30年度国家予算成立 29日 社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会 (17回)

カ. 「介護の現場を守るための署名」の実施について

全国老人保健施設協会からの呼びかけに応じて、介護人材の深刻な不足に対応するための「介護の現場を守るための署名」について、都道府県・指定都市老連を通して実施した。

短期間であったが、老人クラブにおいて40,048筆を集め、共同実施した下記11団体と併せた署名181万筆は、内閣総理大臣、財務大臣、厚生労働大臣に届けられた。

共同実施団体 全国デイ・ケア協会 全国老人福祉施設協議会 全国老人保健施設協会 日本介護福祉士会 日本看護協会 日本言語聴覚士協会 日本作業療法士協会 日本認知症グループホーム協会 日本福祉用具供給協会 日本理学療法士協会 認知症の人と家族の会

実施期間 10月10日 (文書発出) ～11月8日

② 女性委員会の設置・開催

女性委員会を開催して、女性の立場から高齢者の生活と福祉の向上並びに老人クラブ活動の発展に資する制度施策について調査研究を行うとともに、その対策活動を推進した。

ア. 委員会の開催

i. 第1回女性委員会

期 日：平成29年5月26日（金）
会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第6会議室」
内 容：・正副委員長の選任について

ii. 第2回女性委員会

期 日：平成29年9月25日（月）
会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第2会議室」
内 容：・「100万人会員増強運動」の推進について
・「老人クラブ高齢消費者被害防止キャンペーン」について
・全国老人クラブ大会「演じる部会」について

イ. 正副委員長打合せ会の開催

期 日：平成29年12月4日（月）
会 場：東京都千代田区 全国老人クラブ連合会事務局
内 容：・「都道府県・指定都市老連会長会議」における報告について

【女性委員会委員名簿】

委員長	伊藤 八重子	秋田県老連副会長・女性委員長
副委員長	川端 幸枝	群馬県老連副理事長・女性委員長
委員	宇佐美 佳子	岐阜県老連副会長・女性部長
	頼 廣 安子	神戸市老連理事・女性委員長
	川 口 鈴 江	広島県老連副理事長・女性委員長
	山 本 幸 子	高知県老連副会長・女性委員長
	倉 本 八壽子	北九州市老連副会長・女性部会長

③ 老人クラブ活動を推進するための検討会の開催〈国庫補助事業〉

老人クラブ活動の適切かつ効果的な推進に向けて調査研究を行うことを目的に開催した。

本年度は、介護保険制度の改正に伴い、すべての市町村で実施されることとなった新地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業）への参加推進に向けて、先駆的に取り組んでいる市町老連のリーダーを招聘して、それぞれの連合会における新地域支援事業の取り組み状況について報告を行い、老人クラブの今後の参加推進について検討を行った。この内容は、月刊「全老連」5月号に掲載、報告する予定である。

開催期日：平成30年2月13日（火）
会 場：東京都千代田区 商工会館「8A会議室」

- 内 容：・新地域支援事業の取り組み状況について
・協議体、行政や関係団体との連携等について
・老人クラブの参画について

メンバー：栃木県高根沢町シニアクラブ（連合会）事務局長	加 藤 正 秋
奈良県生駒市老連女性部会長	藤 田 照 子
広島県呉市老連常任理事	今 崎 仙 也
福岡県岡垣町寿連会長	野 口 興一郎
全老連常務理事	齊 藤 秀 樹

④ 都道府県・指定都市老連組織・事業調査の実施〈国庫補助事業〉

老人クラブの組織・活動の強化に資するため、都道府県・指定都市老連を対象に、組織体制と事業内容に関する調査を行った。

実施時期：平成29年9月

調査対象：63都道府県・指定都市老人クラブ連合会

調査項目：・事務局体制について

- ・収支予算について
- ・分担金（会費）収入について
- ・補助金・委託金・助成金について
- ・会員増強に関する取り組みについて
- ・若手会員対策の取り組みについて
- ・「健康づくり推進員」の活用について
- ・重点事業について

結果報告：平成29年12月

4. 国内外の災害及び難民等の支援

国内外の災害被災地に、高齢者の善意を届ける支援活動を実施した。

① 国内の災害被災地支援

国内で発生した大規模災害に対し、被災地及び被災地の高齢者・老人クラブ活動の復興を支援するために実施した。本年度は、東日本大震災から6年目、熊本地震から1年目が経過する中、引き続き被災地のクラブの状況や全国からの支援活動を随時紹介して、復興支援を呼びかた。

② 海外の災害被災地支援

本年度は、該当する災害がなかったため、実施しなかった。

相互扶助等事業

1. 活動の充実に資する拠金運動及び安全対策

老人クラブ活動の充実発展に資するため、全国の会員に呼びかけて拠金運動を展開するとともに、活動中や日常生活の事故に備えた「老人クラブ傷害保険」、活動中の加害に備えた「賠償責任保険」の組織的普及を図った。

① 活動拠金運動の実施

全国の会員の連帯意識を高めるとともに、「老人クラブ活動資金等造成運動」により、1会員1口を目標として昭和57年から平成29年までの35年にわたり会員章の組織的な普及、協力を得た。

29年度普及実績：3,281口（拠金額 1,640,500円）

普及累積：2,078,801口（拠金総額 561,017,000円）

② 活動安全対策

老人クラブ会員自身の活動中のケガに対応する「老人クラブ傷害保険・活動型」、活動中に加え日常生活のケガにも対応する「老人クラブ傷害保険・総合型」、活動中の他人への加害（ケガ・物損）に対応する「賠償責任保険」の組織的普及を図った。また、加入者の事故データを分析し、事故防止・安全対策の推進に努めた。

29年度加入実績：傷害保険（総合型・活動型）加入人数 276,986人

（保険料 468,391,000円）

賠償責任保険加入人数 86,264人

（保険料 8,629,900円）

その他法人の目的を達成するための事業

1. 法人の運営及び法人事務の遂行

法人の適正・適切な運営を図るとともに、必要な事務を遂行した。

① 法人の運営

ア. 評議員会の開催

i. 第1回評議員会（定時）

期 日：平成29年6月19日（月）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第3～5会議室」

議 事：第1号議案 平成28年度事業報告について

第2号議案 平成28年度決算について

第3号議案 評議員の選任について

第4号議案 理事の補充選任について

説 明：・100万人会員増強運動3年次報告について

・第46回全国老人クラブ大会について

・今後の全国老人クラブ大会の開催について

・第47回全国老人クラブ大会における活動交流部会「演じる活動」発表団体の募集について

ii. 第2回評議員会（臨時）

期 日：平成30年3月15日（木）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第3～5会議室」

議 事：第1号議案 平成30年度事業計画（案）について

第2号議案 平成30年度収支予算（案）について

第3号議案 評議員の補充選任について

説 明：・第47回全国老人クラブ大会の開催について

・第31回全国健康福祉祭とやま大会「地域文化伝承館」の開設について

イ. 理事会の開催

i. 第1回理事会（定時）

期 日：平成29年5月31日（水）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「特別会議室」

議 事：第1号議案 平成28年度事業報告について

第2号議案 平成28年度決算について

第3号議案 平成29年度定時評議員会の招集について

報 告：・会長・常務理事の職務の執行状況について

- 説 明：・女性委員会委員の補充選任結果について
・第46回全国老人クラブ大会について
・今後の全国老人クラブ大会の開催について
・第47回全国老人クラブ大会における活動交流部会「演じる活動」発表団体の募集について

ii. 第2回理事会（決議の省略）

〔決議の省略による承認事項〕

承認日：平成30年1月19日（金）

- 議 事：第1号議案 平成29年度臨時評議員会の招集について
定款第41条「決議の省略」（「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」第96条。第197条で財団法人に準用）による承認事項

iii. 第3回理事会（定時）

期 日：平成30年3月15日（木）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「特別会議室」

議 案：第1号議案 平成30年度事業計画（案）について

第2号議案 平成30年度収支予算（案）について

第3号議案 副会長の選定について

報 告：・評議員会案件「評議員の補充選任」について

・会長・常務理事の職務の執行状況について

説 明：・第47回全国老人クラブ大会の開催について

・第31回全国健康福祉祭とやま大会「地域文化伝承館」の開設について

ウ. 監事会の開催

期 日：平成29年5月15日（月）

会 場：東京都千代田区 全国社会福祉協議会「第1会議室」

監査事項：・平成28年度事業報告について

・平成28年度決算について

② 法人事務の遂行

ア. 後援・協賛・協力の実施

老人保健福祉の向上に資する諸活動等に対し、後援・協賛・協力等を行った。

i. 後 援

- ・全国歯科保健大会（厚生労働省）
- ・心豊かに歌う全国ふれあい短歌大会（社会福祉法人 宮崎県社会福祉協議会）
- ・全国子ども会育成中央会議・研究大会（公益社団法人 全国子ども会連合会）
- ・シニアコーラス・TOKYO・フェスティバル（公益財団法人 日本チャリティ協会）
- ・クプナ・フラ・フェスティバル（公益財団法人 日本チャリティ協会）

- ・おじいちゃんとおばあちゃん子ども絵画展（兵庫県多可郡多可町）
- ・日本認知症グループホーム大会（公益社団法人 日本認知症グループホーム協会）
- ・在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク全国の集い（NPO法人 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク）
- ・連続シンポジウム「地域で防ごう消費者被害」（日本弁護士連合会）

ii. 協 賛

- ・春の全国交通安全運動（内閣府）
- ・秋の全国交通安全運動（内閣府）
- ・自殺予防週間（厚生労働省）
- ・自殺対策強化月間（厚生労働省）
- ・全国社会福祉大会（社会福祉法人 全国社会福祉協議会）
- ・全国シニア将棋名人戦（公益社団法人 日本将棋連盟）
- ・国民の健康会議（一般社団法人 全国公私病院連盟）
- ・全国青年大会（日本青年団協議会）
- ・西日本国際福祉機器展（西日本国際福祉機器展実行委員会）

iii. 協 力

- ・エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加事例（内閣府）
- ・歯と口の健康週間（厚生労働省）
- ・高齢者の有毒植物誤食防止に向けた注意喚起（厚生労働省）
- ・春季全国火災予防運動（消防庁）
- ・秋季全国火災予防運動（消防庁）
- ・全国レクリエーション大会（公益財団法人 日本レクリエーション協会）
- ・毎日社会福祉顕彰（毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団）

イ. 財務の管理、経理事務の遂行

法人の運営に必要な財務の管理を行うとともに、経理事務を遂行した。

ウ. 全国老人クラブ連合会要覧の作成

本会の役職員および都道府県・指定都市老人クラブ連合会の役職員を掲載した要覧を作成した。

エ. 慶弔の実施

本会及び都道府県・指定都市老人クラブ連合会の慶弔時に対し、祝意及び弔意を表した。

2. 関係団体との連携

高齢者の保健福祉の増進に資するため、関係機関・団体との連携を図った。

機関・団体名	役職名	就 任 者
社会福祉法人 全国社会福祉協議会	理 事	全老連副会長、東京都老連会長 増田 時枝

社会福祉法人 中央共同募金会	評議員	全老連副会長、東京都老連会長 増田 時枝
一般財団法人 長寿社会開発センター	評議員	全老連常務理事 齊藤 秀樹
公益財団法人 社会福祉振興・試験センター	監 事	全老連常務理事 齊藤 秀樹

3. 国際交流事業の実施

高齢者相互の国際交流に資するため、ブラジル並びにパラグアイの日系老連に対し、本会広報誌・月刊「全老連」をはじめとする活動資料を提供するとともに、次の顕彰を行った。

全老連会長表彰

<優良老人クラブ表彰>

受章団体 ブラジル ジュンジアイ日伯文化協会老人部睦会

正味財産増減計算書内訳表
平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計				収益等（相互扶助）事業会計			法人会計	内部取引消去	合計	備考
	【公1】老人クラブ活性化・高齢者調査研究事業	【公2】国内外災害等支援事業	公益共通	小計	活動拠金運動（会員章）	活動安全対策（保険）	小計				
I 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
基本財産運用益	0	0	3,000	3,000	0	0	0	0	0	3,000	
受取分担金	0	0	20,200,000	20,200,000	0	0	0	20,074,000	0	40,274,000	50.2%を公益目的事業会計へ
事業収益	6,240,000	0	0	6,240,000	0	0	0	0	0	6,240,000	
全国老人クラブ大会参加収益	4,930,000	0	0	4,930,000	0	0	0	0	0	4,930,000	
研修会参加収益	985,000	0	0	985,000	0	0	0	0	0	985,000	
健康中央セミナー参加収益	325,000	0	0	325,000	0	0	0	0	0	325,000	
出版等事業収益	22,316,494	0	0	22,316,494	1,296,000	19,480,882	20,776,882	0	0	43,093,376	
図書教材頒布収益	14,059,894	0	0	14,059,894	0	0	0	0	0	14,059,894	
広告料収益	8,256,600	0	0	8,256,600	1,296,000	0	1,296,000	0	0	9,552,600	
保険取扱手数料収益	0	0	0	0	0	19,480,882	19,480,882	0	0	19,480,882	
受取補助金等	15,656,000	0	0	15,656,000	0	0	0	0	0	15,656,000	
受取国庫補助金	8,856,000	0	0	8,856,000	0	0	0	0	0	8,856,000	
受取民間助成金	6,800,000	0	0	6,800,000	0	0	0	0	0	6,800,000	
受取寄付金	0	0	0	0	1,640,500	0	1,640,500	0	0	1,640,500	
受取会員章拠金	0	0	0	0	1,640,500	0	1,640,500	0	0	1,640,500	
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	78,098	0	78,098	
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	78,098	0	78,098	
経常収益計	44,212,494	0	20,203,000	64,415,494	2,936,500	19,480,882	22,417,382	20,152,098	0	106,984,974	
(2) 経常費用				0			0				
事業費	69,512,593	21,532	0	69,534,125	2,069,561	13,884,842	15,954,403	0	0	85,488,528	
給料手当	18,855,396	5,093	0	18,860,489	343,303	1,421,612	1,764,915	0	0	20,625,404	活動推進員設置費含む
臨時雇賃金	3,234,034	0	0	3,234,034	0	0	0	0	0	3,234,034	
退職給付費用	2,043,285	3,754	0	2,047,039	36,662	142,358	179,020	0	0	2,226,059	
福利厚生費	3,335,434	6,196	0	3,341,630	62,249	235,556	297,805	0	0	3,639,435	
会議費	6,792,859	0	0	6,792,859	0	0	0	0	0	6,792,859	
旅費交通費	2,697,535	0	0	2,697,535	0	0	0	0	0	2,697,535	
通信運搬費	5,759,570	0	0	5,759,570	183,979	23,555	207,534	0	0	5,967,104	
減価償却費	7,050	0	0	7,050	107	534	641	0	0	7,691	
消耗品費	1,156,928	840	0	1,157,768	8,420	31,990	40,410	0	0	1,198,178	
印刷製本費	9,768,099	0	0	9,768,099	664,200	19,440	683,640	0	0	10,451,739	
製作費	1,344,762	0	0	1,344,762	664,270	0	664,270	0	0	2,009,032	
賃借料	355,400	680	0	356,080	6,760	25,680	32,440	0	0	388,520	
諸謝金	980,920	0	0	980,920	0	0	0	0	0	980,920	
租税公課	721,900	0	0	721,900	48,000	721,500	769,500	0	0	1,491,400	
支払助成金	6,600,000	0	0	6,600,000	0	0	0	0	0	6,600,000	
事務所管理費	1,052,295	1,985	0	1,054,280	19,855	75,447	95,302	0	0	1,149,582	
委託費	270,000	0	0	270,000	0	7,097,027	7,097,027	0	0	7,367,027	
支払手数料	2,650,344	0	0	2,650,344	1,728	3,476,694	3,478,422	0	0	6,128,766	
調査研究費	242,371	0	0	242,371	0	0	0	0	0	242,371	
賞与引当金繰入	1,616,882	2,984	0	1,619,866	30,028	113,449	143,477	0	0	1,763,343	
雑費	27,529	0	0	27,529	0	500,000	500,000	0	0	527,529	
管理費	0	0	0	0	0	0	0	20,823,754	0	20,823,754	
給料手当（管理）	0	0	0	0	0	0	0	8,453,145	0	8,453,145	
退職給付費用（管理）	0	0	0	0	0	0	0	1,081,216	0	1,081,216	
福利厚生費（管理）	0	0	0	0	0	0	0	1,951,910	0	1,951,910	
会議費（管理）	0	0	0	0	0	0	0	277,510	0	277,510	
旅費交通費（管理）	0	0	0	0	0	0	0	4,059,330	0	4,059,330	
通信運搬費（管理）	0	0	0	0	0	0	0	667,794	0	667,794	
減価償却費（管理）	0	0	0	0	0	0	0	106,024	0	106,024	
消耗品費（管理）	0	0	0	0	0	0	0	622,108	0	622,108	
印刷製本費（管理）	0	0	0	0	0	0	0	424,040	0	424,040	
賃借料（管理）	0	0	0	0	0	0	0	152,020	0	152,020	
租税公課（管理）	0	0	0	0	0	0	0	2,300	0	2,300	
事務所管理費（管理）	0	0	0	0	0	0	0	438,779	0	438,779	
支払手数料（管理）	0	0	0	0	0	0	0	502,212	0	502,212	
慶弔費（管理）	0	0	0	0	0	0	0	107,093	0	107,093	
賞与引当金繰入（管理）	0	0	0	0	0	0	0	708,423	0	708,423	
雑費（管理）	0	0	0	0	0	0	0	1,269,850	0	1,269,850	
経常費用計	69,512,593	21,532	0	69,534,125	2,069,561	13,884,842	15,954,403	20,823,754	0	106,312,282	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 25,300,099	△ 21,532	20,203,000	△ 5,118,631	866,939	5,596,040	6,462,979	△ 671,656	0	672,692	
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当期経常増減額	△ 25,300,099	△ 21,532	20,203,000	△ 5,118,631	866,939	5,596,040	6,462,979	△ 671,656	0	672,692	
2. 経常外増減の部				0			0				
(1) 経常外収益				0			0				
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用				0			0				
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
他会計振替額	0	0	5,000,000	5,000,000	△ 670,000	△ 4,330,000	△ 5,000,000	0	0	0	
税引前一般正味財産増減額	△ 25,300,099	△ 21,532	25,203,000	△ 118,631	196,939	1,266,040	1,462,979	△ 671,656	0	672,692	
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	213,500	213,500	0	0	213,500	
当期一般正味財産増減額	△ 25,300,099	△ 21,532	25,203,000	△ 118,631	196,939	1,052,540	1,249,479	△ 671,656	0	459,192	
一般正味財産期首残高	△ 128,850,234	△ 2,724,152	133,521,437	1,947,051	6,587,158	158	6,587,316	92,218,735	0	100,753,102	
一般正味財産期末残高	△ 154,150,333	△ 2,745,684	158,724,437	1,828,420	6,784,097	1,052,698	7,836,795	91,547,079	0	101,212,294	
II 指定正味財産増減の部				0			0				
受取補助金等	8,856,000	0	0	8,856,000	0	0	0	0	0	8,856,000	
受取国庫補助金	8,856,000	0	0	8,856,000	0	0	0	0	0	8,856,000	
特定資産運用益	0	605,542	0	605,542	0	0	0	0	0	605,542	
特定資産受取利息	0	605,542	0	605,542	0	0	0	0	0	605,542	
特定資産評価益	0	33,679	0	33,679	0	0	0	0	0	33,679	
特定資産評価益	0	33,679	0	33,679	0	0	0	0	0	33,679	
一般正味財産への振替額	△ 8,856,000	0	0	△ 8,856,000	0	0	0	0	0	△ 8,856,000	償却原価法による有価証券増加額
一般正味財産への振替額	△ 8,856,000	0	0	△ 8,856,000	0	0	0	0	0	△ 8,856,000	
当期指定正味財産増減額	0	639,221	0	639,221	0	0	0	0	0	639,221	
指定正味財産期首残高	0	205,156,902	0	205,156,902	0	0	0	0	0	205,156,902	
指定正味財産期末残高	0	205,796,123	0	205,796,123	0	0	0	0	0	205,796,123	
III 正味財産期末残高	△ 154,150,333	203,050,439	158,724,437	207,624,543	6,784,097	1,052,698	7,836,795	91,547,079	0	307,008,417	
事業比率				65.4%			15.0%	19.6%		100%	

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし。

2. 重要な会計方針

平成25年度から、「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券は、償却原価法(定額法)を採用している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品・・・個別原価法に基づく原価法によっている。

貯蔵品・・・総平均法に基づく原価法によっている。

(3) 固定資産の減価償却の方法

定額法による減価償却を行っている。

(4) 引当金の計上基準

退職給付引当金・・・期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

賞与引当金・・・職員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額のうち当事業年度に帰属する金額を計上している。

(5) リース取引の処理方法

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(6) 消費税等の会計処理

消費税込みで会計処理している。

3. 重要な会計方針の変更

(1) 会計方針の変更

該当なし。

(2) 表示方法の変更

① 正味財産増減計算書

前事業年度まで大科目で区分掲記していた「受取会員章拠金」は、内容をより明確に示すため、当事業年度より「受取寄付金」の中科目として表示している。

4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	30,000,000	0	0	30,000,000
小 計	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産				
運用資金積立資産	90,441,419	0	0	90,441,419
退職給付引当資産	10,000,000	500,000	0	10,500,000
団体退職積立資産	56,923,740	2,382,960		59,306,700
国際友愛特定資産	205,156,902	639,221		205,796,123
小 計	362,522,061	3,522,181	0	366,044,242
合 計	392,522,061	3,522,181	0	396,044,242

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	30,000,000		(30,000,000)	
小 計	30,000,000		(30,000,000)	
特定資産				
運用資金積立資産	90,441,419		(90,441,419)	
退職給付引当資産	10,500,000			(10,500,000)
団体退職積立資産	59,306,700			(59,306,700)
国際友愛特定資産	205,796,123	(205,796,123)		
小 計	366,044,242	(205,796,123)	(90,441,419)	(69,806,700)
合 計	396,044,242	(205,796,123)	(120,441,419)	(69,806,700)

6. 担保に提供している資産

該当なし。

7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	237,405	181,611	55,794
ソフトウェア	515,160	128,790	386,370

8. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高
該当なし。

9. 保証債務（債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。）の偶発債務
該当なし。

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

(単位:円)

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
国債	150,000,000	154,990,000	4,990,000

11. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金 国庫補助金	厚生労働省		8,856,000	8,856,000	0	
助成金 民間助成金	みずほ教育福祉財団		6,800,000	6,800,000	0	
合 計		0	15,656,000	15,656,000	0	

12. 基金及び代替基金の増減額及びその残高
該当なし。

13. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額 受取国庫補助金	8,856,000
経常外収益への振替額	0
合 計	8,856,000

14. 関連当事者との取引内容

関連当事者との取引内容は、次のとおりである。

種類	法人等の名称	住所	資産 総額 (単位: 千円)	事業の内容又 は職業	議決権 の所有 割合	関係内容		取引の 内容	取引金額 (単位:千円)	科目	期末 残高 (単位: 千円)
						役員の 兼務	事業上の関係				
監事	渡部 博	東京都渋谷区	-	公認会計士	-	-	会計税務業務 の委託	会計税務業務 の委託	1,360	-	-

15. 重要な後発事象

該当なし。

16. その他

(資産除去債務に関する注記)

本会は、全国社会福祉協議会との契約に基づき、オフィスの退去時における原状回復に係る債務を有しているが、退去する予定がないため資産除去債務を合理的に見積もることができない。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していない。

財産目録

(平成30年3月31日現在)

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	普通預金 三井住友銀行東京公務部 三井住友銀行東京公務部 三井住友銀行東京公務部 三井住友信託銀行芝営業部	公益目的事業、収益等事業及び法人会計の運転資金等として 収益等事業(安全対策)の保険料預り金 収益等事業(組織充実事業)の運転資金として 公益目的事業、収益等事業及び法人会計の運転資金等として	1,470,150 17,765,162 2,479,171 110,417
	振替口座 ゆうちょ銀行貯金事務センター ゆうちょ銀行貯金事務センター ゆうちょ銀行貯金事務センター ゆうちょ銀行貯金事務センター ゆうちょ銀行貯金事務センター	(公1)活動活性化・調査研究事業の運転資金として (公1)活動活性化・調査研究事業の運転資金として 収益等事業(安全対策)の保険料預り金として 収益等事業(安全対策)の保険料預り金として 収益等事業(安全対策)の保険料預り金として	184,262 136,616 23,229,696 189,786 48,800
前払金		収益等事業(安全対策)保険料暫定先払い分として	10,000
未収金	全国社会福祉協議会他 宮城県老人クラブ連合会他 (有)シニアサービス社 東京都労働局	(公1)活動活性化・調査研究事業の図書編纂料等未収 収益等事業(組織充実事業)の会員章拠金未収 保険取扱手数料収入 労働保険料暫定払精算戻り額	1,270,875 90,000 449,540 2,371
商品及び製品 貯蔵品		(公1)活動活性化・調査研究事業図書教材棚卸 収益等事業(組織充実事業)会員章棚卸	1,758,161 1,238,720
流動資産合計			50,433,727
2. 固定資産			
(1)基本財産	定期預金 三井住友銀行東京公務部	公益目的保有財産(運用益を公益目的事業費に充当)	30,000,000
基本財産合計			30,000,000
(2)特定資産			
団体退職積立資産	全国社会福祉団体職員積立基金	法人会計管理で職員退職給付引当見合の引当資産として管理	59,306,700
退職給付引当資産	普通預金 三井住友銀行東京公務部 三井住友銀行東京公務部	職員退職給付引当見合の引当資産として管理 職員退職給付引当見合の引当資産として管理	10,100,000 400,000
運用資金積立資産	普通預金 三井住友銀行東京公務部 三井住友銀行東京公務部		62,441,419 28,000,000
国際友愛特定資産	定期預金 三井住友信託銀行芝営業部 利付国債 三井住友信託銀行芝営業部 三井住友信託銀行芝営業部	(公2)国内外災害等支援事業(運用益を公益目的事業費に充当) (公2)国内外災害等支援事業(運用益を事業費に充当) (公2)国内外災害等支援事業(運用益を事業費に充当)	56,027,130 99,697,743 50,071,250
特定資産合計			366,044,242
(3)その他固定資産			
什器備品	事務所内耐火金庫	公益目的保有財産として(55,794×使用割合) 収益等事業目的保有財産として(55,794×使用割合) 法人運営目的保有財産として(55,794×使用割合)	19,512 16,608 19,674
ソフトウェア	会計用ソフトウェア	法人運営目的保有財産として	386,370
その他固定資産合計			442,164
固定資産合計			396,486,406
資産合計			446,920,133
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	東洋紙業(株)他 ヤマト運輸(株) (福)全国社会福祉協議会他	(公1)活動活性化・調査研究事業に関する印刷代他の未払 収益等事業(組織充実)に関する送付代他の未払 法人運営に関する会議費他の未払	956,160 154,581 1,577,115
預り金	職員、原稿執筆者	法人会計管理での源泉所得税等	375,837
老人クラブ保険料預り金		収益等事業(安全対策)に関する保険料預り金	41,385,220
賞与引当金			2,471,766
未払法人税等			213,500
未払消費税等			675,600
流動負債合計			47,809,779
2. 固定負債			
退職給付引当金			92,101,937
固定負債合計			92,101,937
負債合計			139,911,716
正味財産			307,008,417